

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月30日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21330178

研究課題名（和文）「伝承・習い事」文化における継承と生涯学習の現代的課題に関する日中韓比較研究

研究課題名（英文）Comparative study on the succession of traditional cultures and cultural learning activities in relation to contemporary issues of lifelong learning among Japan, China, and Korea

研究代表者

渡邊 洋子 (WATANABE YOKO)

京都大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：70222411

研究成果の概要（和文）：

国内調査では、①京都・沖縄・新潟における伝承文化の継承基盤と諸要素の明確化、②グローバル化の進展に伴う諸要因との関連性の考察、③総合的観点からの横断的比較、④質的考察などを行った。国際比較調査では、中韓研究者の協力を得て、現地調査と京都会議、神戸大学でのラウンドテーブル、中国・珠海での「伝統文化と生涯学習」日中韓国際シンポジウムを主催・共催した。成果は2012年3月刊行の科研報告書『「伝承・習い事」文化における継承と生涯学習の現代的課題に関する日中韓比較研究』に加え、6年間の成果の出版を準備中である。

研究成果の概要（英文）：

For domestic research: we identified bases for succession of traditional cultures and related elements in Kyoto, Okinawa, and Niigata; made observation on the effects of globalization on traditional culture; made cross-sectional comparison among the three areas; qualitative case studies in each. And for international comparative research: we coordinated and collaborated for the field study in Beijing, Seoul and Kongju; International Kyoto Meeting, Round Table at Kobe University(both in 2010), and International Symposium on Traditional Culture and Lifelong Learning Among China, Japan and Korea at the Zhuhai Branch of Beijing Normal University, China(2011). The main outcome is the Final Report and Collection of Papers: *Comparative study on the succession of traditional cultures and cultural learning activities in relation to contemporary issues of lifelong learning among Japan, China, and Korea* (March, 2012). And publication of a book is being planned for the moment.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2010年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2011年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
年度			
総計	6,900,000	2,070,000	8,970,000

研究分野：生涯教育学

科研費の分科・細目：教育学、教育学

キーワード：生涯学習、伝承文化、文化的グローバリゼーション、文化伝承活動、東アジア比較文化、ローカル・アイデンティティ、地域社会教育、異世代コミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

近年の急激なグローバリゼーションの潮流を背景に、文化的な単一化・画一化が推進され、地域や生活に根ざした文化的価値の多くが、アメリカ中心のグローバルな文化に取って代わられる中、日中韓をはじめとする儒教圏の地域で培われてきた「伝承」「習い事」文化は、いかにしてその独自性を護ろうとし、またいかに時代や変化への適応や対抗の中で変容してきたのか。また、人々はその中で（ローカル・）アイデンティティをどのように形成・再構築し、足場となる地域といかに向かい合いつつ、生涯学習の現代的諸課題に対応しようとしているのか。これらの問いは、各々の社会における今後の生涯学習の発展の方向性を示唆するものと考えられた。

本研究は6年計画の比較研究の後半部である。前半3年間は『伝承・習い事文化における学習様式と生涯学習の現代的課題に関する比較研究』（基盤研究（B）課題番号18330167、2006～2008年度）として主に、歴史的・政治的・社会的背景は異なるが、各々ゆたかな文化土壌をもつ京都、沖縄、新潟を対象に、国内調査に取り組んだ。主対象は、「伝統」や「文化」の「形」を重視しつつ維持・存続をはかろうとする京都、時代状況の変化に柔軟に対応して活力を得ている沖縄、そして両者と異なり継承への志向も変化への対応も顕著でない新潟、と特徴づけられる3地域であった。各々の地域の特徴を把握するべく、伝統芸能・伝承文化の継承に関わる2～3回のフィールドワーク、および全学校対象の「文化伝承活動の取り組みに関するアンケート調査」を実施した。

本研究はこれらの国内調査を受け、その深化と日中韓という東アジアの3国の伝統・伝承文化の継承形態の特質や現状、そこでの諸課題を比較検討すべく、中国・韓国の研究者・実践者との共同的な調査研究や研究協議を行う後半3年間の研究として構想された。事前（2008年10月10～14日）の韓国・中国予備調査では、現地関連施設（韓国国楽院・北京市石景山青少年活動中心）の見学・訪問、中国では現地研究者（北京師範大学・石中英大学院長、北京聯合大学北京学（伝統文化）研究所・張妙弟顧問）、韓国では、現地研究者（梨花女子大学平生教育学院長 Kwak Samgeon 教授、公州国立大学 Yang Byonchan 教授）、両国語の通訳・翻訳が可能な現地の研究協力・補助者も確保し、研究の準備体制

を整えた。

2. 研究の目的

本研究は、主に日本・中国・韓国という東アジア諸社会における「伝承」文化と「習い事」文化に着目し、その継承のあり方（伝承／伝授／伝達、および習得／学習の様式）に通底する基本原理と諸要素を抽出すると同時に、グローバリゼーションの下での人々の生活と生涯学習の諸課題に、文化の存続・変容をめぐるダイナミズムがいかに結びついているか、その現状と可能性を比較考察するものである。「東アジア」という生活圏の中に位置づけて捉えることにより、生活や地域に根ざした現代生涯学習の意義とそこでの人々の自己形成の課題や可能性を、導き出すことを目指して着手された。

3. 研究の方法

(1) 国内調査

- ① 担当地域の文化伝承活動について、以下を解明する情報収集とヒアリング調査
・学校と社会教育機関・団体、他の生涯学習機会や人的ネットワークの関連、
・ローカル・アイデンティティ、後継者養成、地域活性化、観光などの関連
- ② 担当地域で顕著な文化伝承活動や「伝承・習い事」文化の継承事例を選び、フィールドワークにもとづく質的調査。
- ③ ①・②を持ち寄り、横断的に比較検討
- ④ 研究成果を共著書にまとめる準備作業

(2) 国際比較調査

- ① 研究代表者・分担者が韓国・中国の現地研究者に正式に研究協力を依頼。
- ② 訪中・訪韓し、現地研究者と研究交流および調査打ち合わせ。
- ③ 現地共同調査の実施。
- ④ 研究交流（合同研究会や共同執筆）
- ⑤ 日中韓国際シンポジウムの企画実施

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

国内調査は学校調査を踏まえ、研究代表者・分担者が①3地域における伝承文化の継承基盤と諸要素の明確化（学校と社会教育機関・団体、他の生涯学習機会や人的ネットワーク

などの関連構図を含む)、②グローバル化の進展に伴い重要性が増してきた諸要因(ローカル・アイデンティティ、後継者養成、地域活性化、観光など)との関連性の考察、③①と②を踏まえた総合的観点からの横断的比較、④3府県における質的考察への取り組み(特に沖縄)などに取り組んだ。加えて、京都大学では独自に伝承文化・生涯学習研究会を立ち上げ、地道な研究活動を積み上げてきた。国際比較調査では、中国・韓国の現地研究者・実践者(北京連合大学附属北京学研究所顧問・同大学元学長張妙弟教授、北京師範大学珠海校日本教育研究所長胡学亮教授、上海・复旦大学徐静波教授、ソウル大学教育人類学講座鄭教授、韓国忠南教育研究所事務局長趙誠姫氏、龍谷大学朴教授など)の協力を得て、現地調査(北京市・ソウル市・公州市各伝統文化施設、北京学研究所、忠南教育研究所、民俗博物館など)、および研究交流(2010年9月の「京都国際会議」、神戸大学での日本社会教育学会研究大会ラウンドテーブル「伝統文化と生涯学習をめぐる日中韓対話セッション」、2011年10月の北京師範大学珠海校での「伝統文化と生涯学習日中韓国際シンポジウム」など)を通し、日中韓の比較研究の枠組構築と具体的考察のための研究報告や研究協議などに取り組んだ。

これらの研究成果は、2012年3月に科研報告書『「伝承・習い事」文化における継承と生涯学習の現代的課題に関する日中韓比較研究』本編(研究の報告と成果、および論文集)・附録編1(珠海国際シンポジウム報告書の複写版)・附録編2(写真集)として取りまとめ、国会図書館・国立大学図書館などに寄贈している。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

京都会議、神戸でのラウンドテーブル、中国・珠海市での日中韓シンポジウムで日中韓の人的ネットワークが生み出された。その人間関係を基盤として、2013年秋に北京連合大学伝統文化研究所との共催で、第4回国際会議を開催予定である。また、韓国では後掲のように、上記研究交流の様子が2度、韓国有数のインターネットニュースで紹介されたことは特筆される。さらに、韓国の忠南教育研究所一行が、2012年3月に沖縄を訪問、また現在、北京訪問の可能性を検討しているなど、本研究で生み出されたネットワークが、今後の伝統文化と生涯学習に関わる日中韓の研究・実践的交流の基盤となっていくことは確実であり、今後の発展が確信される。

(3) 今後の展望など

現在、これらの蓄積をもとに、6年間の研究成果をまとめた共著書の刊行を計画してお

り、すでに明石書店の了解を得て、編集会議に入るところである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

- ① 渡邊洋子、「伝承・伝統文化と生涯学習」をめぐる比較研究の経過と課題、研究成果報告書:「伝承・習い事」文化における継承と生涯学習の現代的課題に関する日中韓比較研究、査読無、本編、2012、28-35
- ② 渡邊洋子、文化の伝承・継承とその空間—グローバル・ローカルな学びの場としての「祭り」、研究成果報告書:「伝承・習い事」文化における継承と生涯学習の現代的課題に関する日中韓比較研究、査読無、本編、2012、46-58
- ③ 相庭和彦、グローバル化社会における伝統文化学習の生涯学習的意義—日本における伝統文化継承の史的意義と生涯学習の課題、研究成果報告書:「伝承・習い事」文化における継承と生涯学習の現代的課題に関する日中韓比較研究、査読無、本編、2012、36-45
- ④ 大城和喜・芳澤拓也、現代沖縄県における伝統文化の意味についての一考察—生涯学習の場としての沖縄県南風原町喜屋武集落綱引き行事、研究成果報告書:「伝承・習い事」文化における継承と生涯学習の現代的課題に関する日中韓比較研究、査読無、本編、2012、92-97
- ⑤ 芳澤拓也、沖縄の学校と地域における「地域伝承文化への取り組み」の差異について、研究成果報告書:「伝承・習い事」文化における継承と生涯学習の現代的課題に関する日中韓比較研究、査読無、本編、2012、98-112
- ⑥ 渡邊洋子、特集「伝承文化と生涯学習」の日中韓比較研究から」について、京都大学生涯教育学・図書館情報学研究、査読無、Vol. 10、2011、121-122、<http://hdl.handle.net/2433/139410>
- ⑦ 張妙弟・張帆(宋佳訳・渡邊洋子日本語校閲)、状況と見解(二)文化の伝承と生涯学習に関する基本的概念と事例について、京都大学生涯教育学・図書館情報学研究、査読無、Vol. 10、2011、123-134、<http://hdl.handle.net/2433/139409>
- ⑧ 趙誠姫(翻訳:神谷智昭)、忠南教育研究所農村教育文化共同体活動の事例—地域住民の生活から生み出された文化芸術教育、京都大学生涯教育学・図書館情報学研究、査読無、Vol. 10、2011、135-151、<http://hdl.handle.net/2433/139408>

- ⑨徐静波、(依頼論文) 中国におけるお茶文化の展開とその日本への初期伝来、京大大学生涯教育学・図書館情報学研究、査読無、Vol.10、2011、153-163、
<http://hdl.handle.net/2433/139407>
- ⑩相庭和彦、グローバル化社会における「伝統文化」と生涯学習、新潟大学教育学部研究紀要(人文社会科学編)、査読無、第3巻第2号、2011、163-170、
<http://hdl.handle.net/10191/16665>
- ⑪渡邊洋子、地域主権と「共有知」としての地域文化の振興—グローバル時代の現状と課題、学習社会研究、査読有、第1号、2010、54-65
- ⑫張妙弟・張帆著、張周シュウ訳、渡邊洋子 日本語校閲中国の伝統文化をめぐる状況と見解—日本「伝承文化と生涯学習」研究会との交流から、京大大学生涯教育学・図書館情報学研究、査読無、第9号、2010、167-176、
<http://hdl.handle.net/2433/109752>
- ⑬渡邊洋子、沖縄県南風原文化センター—歴史と出会う・文化と出会う・生き方と出会う、京大大学生涯教育学・図書館情報学研究、査読無、第9号、2010、213-214、
<http://hdl.handle.net/2433/109748>
- ⑭芳澤拓也、沖縄の学校と地域における「地域伝承文化への取り組み」の差異について、沖縄県立芸術大学紀要、査読無、第18号、2010、73-92
- ⑮芳澤拓也、沖縄の21歳の生活状況と社会関係資本、「若者の教育とキャリア形成に関する調査」2008年第2回調査結果報告書、査読無、一、2010、151-166
- ⑯渡邊洋子、「生涯学習」概念の成立、21世紀における日本の教育改革—日中学者の視点(京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター編：日本語論文集)、査読無、一、2010、71-76

[学会発表] (計3件)

- ①渡邊洋子「中日韓伝統文化と生涯学習シンポジウム 日本側参加者代表の挨拶」北京師範大学珠海校・伝承文化と生涯学習研究会共催「中日韓伝統文化と生涯学習シンポジウム」(企画運営者)、2011年10月29日、北京師範大学珠海校(中国・珠海市)。
- ②渡邊洋子、「伝承・伝統文化と生涯学習」をめぐる比較研究の経過と課題、北京聯合大学主催「2010年北京学国際シンポジウム」(招待講演)、2010年10月28日、花園酒店会議場(中国・北京市)
- ③渡邊洋子、「伝承・伝承文化と生涯学習の課題」をめぐる日中間の対話セッション、日本社会教育学会研究大会・ラウンドテーブル2(世話人)、2010年9月20日、神戸大学(兵庫県)

[図書] (計4件)

- ①渡邊洋子編著、渡邊洋子、研究成果報告書：「伝承・習い事」文化における継承と生涯学習の現代的課題に関する日中韓比較研究(本編)、2012、292
- ②辻本雅史・袁振国監修、南部広孝・高峽編、京都大学学術出版会、東アジア新時代の日本の教育—中国との対話、2012、179-193 (渡邊洋子・吉田正純、第10章 戦後社会教育をめぐる論点と生涯学習の現代的課題)
- ③ピーター・ジャーヴィス著、渡邊洋子・吉田正純監訳、明石書店、生涯学習支援の理論と実践—「教えること」の現在、2011、420
- ④田慧生・田中耕治主编、高峽執行主编、教育科学出版社(中華人民共和国)、21世紀的日本教育改革—日中学者の視点、2009、158-165 (渡邊洋子、終身学習概念的形成)

[その他]

ホームページ等

- パク・ヒョングン、共通した文化を通してともに発展する韓国・中国・日本、
<http://www.ohmynews.com/>、2011.11.04付「民族・国際」欄(原語はハングル)
- パク・ヒョングン、伝統文化の継承と生涯教育のための国際会議—韓国の先駆的伝統文化活用教育、
<http://www.ohmynews.com/>、2010.9.21付「民族・国際」欄(原語はハングル)
- 上記2つの記事の日本語訳は(各々神谷智昭訳・金賢貞訳)、科研報告書(図書①)の230-235頁、236-240頁に所収。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡邊 洋子 (WATANABE YOKO)
京都大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：70222411

(2) 研究分担者

相庭 和彦 (AIBA KAZUHIKO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：00222464
芳澤 拓也 (YOSHIKAWA TAKUYA)
沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・准教授
研究者番号：10389950

(3) 連携研究者

()
研究者番号：

(4) 研究協力者

張 妙弟 (ZHANG MIAODI)
北京連合大学・元学長・教授、同大附属北京学研究所・顧問

胡 学亮 (HU XUELIANG)
北京師範大学珠海校・日本教育研究所・所長・同教授 (日本教育史)

徐 静波 (XU JINGBO)
上海・復旦大学・教授 (日本文化・日本語学)

趙 誠姫 (CHO SUNG-HEUI)
韓国・忠南教育研究所・事務局長

李 轍哲
韓国・忠南教育研究所・副所長

鄭 向真
ソウル大学校師範学校・准教授 (教育人類学)

大城 和喜 (OSHIRO KAZUKI)
沖縄県南風原文化センター・元館長

朴 炫国 (PARK HYUNKUK)
龍谷大学・国際文化学部・准教授

宮前 耕史 (MIYAMAE YASUFUMI)
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：30584156

神谷 智昭 (KAMIYA TOMOAKI)
琉球大学・法文学部・技術補助職員

金 賢貞
日本学術振興会・外国人特別研究員 (東京大学)

柴原 真知子 (SHIBAHARA MACHIKO)
京都大学・医学研究科・助教
研究者番号：40625068

宋 佳 (SONG JIA)
京都大学・教育学研究科・修士課程院生